



第122号

令和5年(2023年)1月1日
滋賀県立安土城考古博物館



十二月月図屏風 月岡雪鼎筆 (滋賀県立琵琶湖文化館蔵)

滋賀県立琵琶湖文化館地域連携企画展 滋賀県立安土城考古博物館第67回企画展

琵琶湖文化館 収蔵品にみる四季

令和5年2月4日(土)ー4月2日(日)

開館時間 午前9時～午後5時 ※ただし、入館は午後4時30分まで

休館日 月曜日

入館料 大人600円(480円)/高大生360円(290円)

※小中生・県内高齢者・障害のある方は無料。※()は20人以上の団体料金です。



近江風土記の丘
滋賀県立 安土城考古博物館
Shiga Prefectural Azuchi Castle Archaeological Museum

※必ずマスクを着用してください。発熱・カゼ症状のある方は来館をお断りしております。

琵琶湖文化館

収蔵品にみる四季

会期 2月4日(土)～4月2日(日)
会場 企画展示室

日本の春夏秋冬の美しさは、古くから絵画や工芸品に表現されてきました。

江戸時代の画家、山本梅逸やまもとばいいつによる「寒華傲雪図」では、竹・梅・椿・南天などの植物が、雪の重さでしなり、絵の途中には鳥達が身を寄せ合い、羽を休める様子が描かれます。この作品で注目したいのが、冬の空気の表現です。薄墨を塗ることで、冬の寒々しい背景を描き、白色を塗り残して降り積もった雪が表現されています。雪の日の、静かで、少し張り詰めたような感覚までもが伝わってくるようで、思わず息をひそめたくくなります。

この作品は、滋賀県立琵琶湖文化館に収蔵されています。琵琶湖文化館は、現在休館中ですが、滋



寒華傲雪図 山本梅逸 江戸時代
(滋賀県立琵琶湖文化館蔵)



湖東鉢 鳴鳳絵付 江戸時代
(滋賀県立琵琶湖文化館蔵)

賀県内の博物館施設などと連携した展覧会を開催し、多くの優れた収蔵品を公開する機会を設けています。今回は、安土城考古博物館を会場とし、琵琶湖文化館収蔵品を公開します。

今回の展覧会では、琵琶湖文化館収蔵品のなかから、近世絵画を中心にとりあげ、「寒華傲雪図」のような「作品に表現された季節の美しさ」に焦点を当てて紹介します。作品に表現された日本と近江の豊かな四季を感じていただき、琵琶湖文化館収蔵品の魅力を再発見していただければ幸いです。

【主な展示資料】

- 1 四季の営み
 - ・ 十二月月図屏風 月岡雪鼎筆 江戸時代
 - 2 四季の風景
 - ・ 夏山飛瀑図 小林竹洞筆 江戸時代
 - ・ 秋草群鶉図 岡本秋暉筆 江戸時代
 - 3 近江の四季
 - ・ 近江八景図屏風 吉田元陳筆 江戸時代
 - ・ 琵琶湖図 圓山応震筆 江戸時代
 - ・ 湖上之春 松田喜代次作 昭和期 など

以上、全て滋賀県立琵琶湖文化館蔵

新しい琵琶湖文化館に メッセージを届けよう！

現在、滋賀県では、新しい文化館開館に向けて準備を進めているところです。

そこで、「琵琶湖文化館収蔵品にみる四季」の展覧会会場では、新しい琵琶湖文化館でも見たい作品への投票や新しい琵琶湖文化館展覧会へのご意見をお寄せいただくコーナーを設置します。皆さまからの投票・ご意見を参照しながら琵琶湖文化館収蔵品の魅力や新しい琵琶湖文化館への期待について語り合う関連行事も開催予定です。



現在の琵琶湖文化館

【企画展関連行事】

座談会「新しい文化館と収蔵品を語る」

3月19日(日) 13時30分～15時

滋賀県立安土城考古博物館 セミナールーム
定員あり(申込先着順)

登壇者 和澄浩介氏(琵琶湖文化館主任学芸員)

田澤 梓氏(琵琶湖文化館学芸員)

福西貴彦氏(滋賀県文化財保護課主査)

岩崎里水(安土城考古博物館学芸員)

・安土城考古博物館に往復はがきにて要申込み

・行事詳細は安土城考古博物館ホームページをご覧ください。



琵琶湖文化館キャラクター
あぎつくん

収蔵資料紹介

木偶（大中の湖南遺跡出土）

弥生時代中期 右 三六cm × 九cm × 八・三cm
左 五六・四cm × 一〇・二cm × 六・四cm
木製 当館所蔵

近江風土記の丘歴史公園を構成する4つの国史跡のひとつ、大中の湖南遺跡から出土した木偶を紹介いたします。

「木偶」は一般に「でく」と読みますが、考古学では「もくぐう」と読みます。土製・石製の素材で人を表現した造形物を「土偶（どぐう）」「岩偶（がんぐう）」と呼ぶのにならって、木製のものは「もくぐう」と呼ぶことになっています。土偶も岩偶も縄文時代に盛行し

て、出土例は減少するものの弥生時代にも続きます。一方、木偶は縄文時代にはなく弥生時代中期を中心に作られていて、しかも出土例は滋賀県に集中するというシロモノです。その木偶がはじめて発見されたのが、ここで紹介する大中の湖南遺跡の出土品です。

大中の湖南遺跡の発掘調査は一九六五〜六六年に行われました。大中の湖の干拓工事によってあらわになった湖底から見つかった遺跡です。弥



生時代中期の前半期に営まれたムラの遺跡で、湖底遺跡ゆえに農具・工具・容器といった豊富な木製品が出土しており、そのなかに2点の木偶が含まれていました。

木偶は男女を区別して作られていたとみられ、2体が一組になっていたようです。また、墓の近くから出土することが多いので、祖霊の象徴として墓前に突き立てていたとみられます。

奔放な表現の縄文土偶に比べ、頭と首・ウエストのくびれしか強調されることのない控えめな表現が弥生木偶の特徴です。顔の表現も表情豊かとはいえないです。とはいえ、人物を立体的に表現した造形物の少ない弥生時代のなかでは、当時の人々の精神性をうかがうことのできる重要な資料です。
(伊庭 功)

史跡案内

史跡 伊庭御殿跡

安土城下を通る朝鮮人街道は、徳川家康が関ヶ原の戦い後の上洛時に用いたことから、吉祥の道として、その後も将軍が上洛する際に使用されました。江戸時代初期、街道沿いには伊庭御殿（東近江市）や永原御殿（野洲市）といった将軍専用の休息・宿泊施設が整備されました。

寛永十一年（一六三四年）、伊庭御殿は將軍徳川家光の上洛に際して、大名茶人であり、作庭家としても名高い小堀遠州が作事奉行として造営しました。東近江市能登川町にある旧跡には、南北百メートルほどの平坦な敷地の周囲に高さ一メートルほどの石垣が約五十メートルにわたって残ります。江戸幕府の大工頭を務めた中井家に伝わる「江州伊庭御殿御茶屋御指図」には、「御殿」「御料理間」「御湯殿」「御馬屋」などの記載があり、能登川町教育委員会が実施した発掘調査では、建物の一部とみられる石列や井戸跡などが見つかっています。

令和二年、地域住民により大切に守られてきた伊庭御殿跡は、江戸初期の政治状況を知る上で重要な文化財として史跡に指定されました。



特別史跡 伊庭御殿跡

滋賀県立琵琶湖文化館地域連携企画展 滋賀県立安土城考古博物館第67回企画展 「琵琶湖文化館収蔵品にみる四季」 2月4日(土)～4月2日(日)		特別陳列 近江の遺跡発掘成果Ⅱ 「良い年になりますように！」 「招福と無病息災のラッキーアイテム」 〈望楼下〉～1月22日(日)	
3月		2月	1月
27日(月) 休館日 26日(日) 子ども考古学教室〈要予約〉 20日(月) 休館日	19日(日) 企画展関連行事 座談会「新しい文化館と収蔵品を語る」〈要予約〉 登壇者：和澄浩介氏(琵琶湖文化館主任学芸員) 田澤 梓氏(琵琶湖文化館学芸員) 福西貴彦氏(滋賀県文化財保護課主査) 岩崎里水(安土城考古博物館学芸員)	27日(月) 休館日 20日(月) 休館日 13日(月) 休館日 11日(土)祝 連続講座Ⅱ「水の考古学」④「東南アジアと西アジアの水と暮らし」〈要予約〉 講師：用田政晴氏(神戸学院大学人文学部教授)	8日(日) 連続講座Ⅱ「水の考古学」③「黄河と長江の遺跡と博物館をゆく」〈要予約〉 講師：用田政晴氏(神戸学院大学人文学部教授)
		6日(月) 休館日 5日(金) メンテナンス休館(1/23(月)～2/3(金))	10日(火) 休館日 16日(月) 休館日 23日(月)～メンテナンステナンス休館(1/23(月)～2/3(金))

博物館の主な催し



植栽後の記念撮影

10月27日に当館の開館30周年を記念し、植栽を行いました。

11月1日に開館以来30年を迎えましたが、この間に館前庭の植込みの一部が風水害等で枯死してしまいました。そのため、新たに植栽することを検討していたところ、三菱UFJ環境財団からサツキツツジ232本をご寄付いただきました。

当日は、来館者や東近江市立湖東第二小学校6年生の皆さんに植栽していただきました。来春には彩り豊かな前庭をご覧いただけます。是非ご来館ください。

※博物館関連講座の会場は当館セミナールームです。
 ※事情により行事内容や日時・講師が変更になることがあります。最新の情報は当館ホームページでご確認ください。
 ※講座はすべて事前申込制となっております。詳細は、電話でお問い合わせください。なお、当館ホームページおよび講座の広報チラシでもご確認できます。
 ※滋賀県立安土城考古博物館は公益財団法人滋賀県文化財保護協会が指定管理をしています。